

TOYOTOMI

木質バイオマス燃料 ペレットストーブ

ピーイー
型式 **PE-6**

密閉式ペレットストーブ

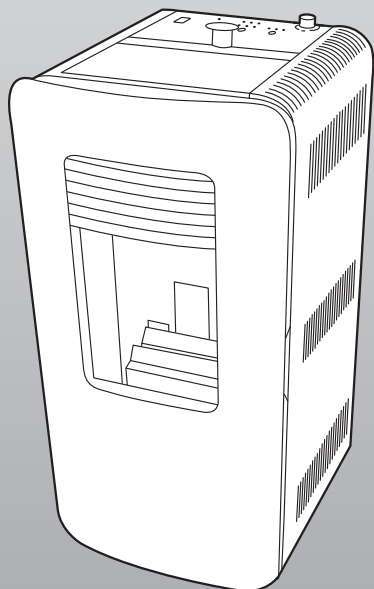
取扱説明書 (保証書付き) (裏表紙に付いています。)

このたびは本機をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しく使用してください。この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。

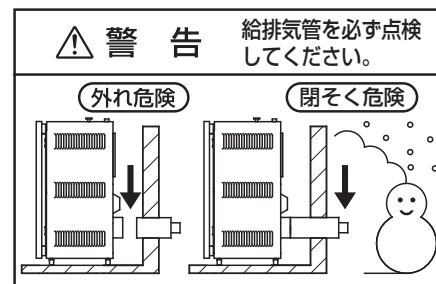
■地域によっては、条例により設置できない場合もあります。当社までご相談ください。

■このストーブは「工事説明書」の弊社標準据付け例などに基づいて、給排気管を必ず取り付けてから使用してください。給排気管の据付け・移設工事は必ず販売店、または弊社指定店などに依頼してください。給排気管を取り付けず使用すると一酸化炭素中毒に至るなど重大な危険となるおそれがあります。





目次

1	安全のために必ずお守りください	1~5
2	使用する場所	5
3	各部のなまえ	6
4	使用前の準備	7~9
	木質ペレット燃料について	7
	燃料供給のしかた	7
	点火前の準備と確認	8~9
5	使いかた	9~17
	点火のしかた	9~10
	火力調節	11
	送風ファン風量切替のしかた	11
	炎の状態	12
	入タイマー運転のしかた	13
	切タイマー運転のしかた	14
	[切→入]タイマー運転のしかた	15~16
	消火のしかた	16
	消火後再点火するときの注意	16
	トッププレートの使いかた	16
	クリーニング燃焼表示	17
	灰処理のしかた	17
6	安全装置	18
7	日常の点検・手入れ	19~20
8	定期点検	21
9	故障・異常の見分けかたと処置のしかた	21~23
	修理を依頼される前に調べていただきたいこと	21
	異常のお知らせ	22
	故障かなと思ったときに	23
	最大燃焼時の炎が大きすぎたり、小さすぎたりする場合	23
10	部品交換のしかた	24
11	保管のしかた(長期間使用しない場合)	24
12	廃棄するとき	24
13	仕様	25
14	アフターサービス	26
	保証について	26
	補修用性能部品について	26
	転居される場合	26
	据付け・移設について	26
	保証書	裏表紙






1 安全のために必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

- 説明文中の「お願い」「お知らせ」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

 警告(WARNING)

<p>★使用燃料は木質ペレット以外厳禁</p> <p>燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。火災の原因になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> ペレット</div> <div style="text-align: center;"> ガソリン</div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>	<p>★給排気管外れ危険</p> <p>給排気管が正しく接続されているか必ず点検してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>
<p>★給排気用トップ閉そく危険</p> <p>積雪の多い地方では、給排気用トップが雪でふさがれないようにしてください。排ガスを再度吸込んで異常燃焼を起こすことがあります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>	<p>★かん合部の外れ危険</p> <p>灰トレイや燃焼室扉・燃料タンク扉などが確実に取り付けられているか確認してください。外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>
<p>★燃焼室扉・燃料タンク扉開放厳禁</p> <p>運転中は絶対に燃焼室扉を開けないでください。また、燃料タンク扉を開けたまま運転しないでください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>	<p>★スプレー缶厳禁</p> <p>スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブに近付けたり、周囲に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"> 禁止</div> </div>

警告 (WARNING)

★温風吹出口をふさがない

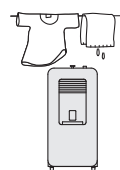
衣類、紙などで温風吹出口をふさがないでください。異常燃焼や火災の原因になります。



禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。落下した衣類に火がつき、火災の原因になります。



禁止

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。



注意

★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。



注意

★本体や内部には水をかけない

ショート・故障・感電・さびの原因になります。



禁止

★定期点検の実施

定期的(1シーズンに1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。



指示

★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは空だきをしないでください。空だきをすると、火災の原因になります。



禁止

また、なべ、やかんやフライパンなどの取っ手が溶けたり、樹脂が溶けたりするおそれがあります。

★災害・停電時は、電源を切り窓を開けて換気をする

このストーブは電気式です。停電時は排気ファンが止まり、煙が出ることがあります。

このような時は、あわてずに窓を開けて換気してください。



指示

★ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。

(ストーブを移設させる場合も同じです。)



禁止

★高温部接触禁止

- 燃焼中や消火直後は、高温部(トッププレート、上面板、外扉、燃焼室扉、燃焼窓、温風吹出口、側板上部、給排気管など)に手をふれないでください。やけどのおそれがあります。
- やかんやなべの取っ手は、加熱されていることがありますのでやけどに注意してください。

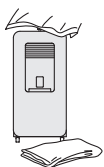


接触禁止

注意 (CAUTION)

★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもの、そばなどでは、使用しないでください。ストーブ周辺に可燃物を置かないでください。火災の原因になります。



禁止

★やかんやなべなどの使用注意

- やかんやなべをのせた場合は、細心の注意をしてください。
- 吹きこぼれたり、煮こぼれたりした場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。水分がストーブ内部に入ると、漏電や故障の原因になります。



注意

★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。火災ややけどのおそれがあります。



消火

1 安全のために必ずお守りください

⚠ 注意 (CAUTION)

★指や異物を入れない

- ストープの内部や燃焼室内及び上面、燃料タンク内には紙、布、プラスチック、スプーンなどの異物を入れないでください。火災や感電、予想しない事故の原因になります。
- すきまや穴に指や棒などを入れないでください。けがや故障するおそれがあります。



禁止

★異常・故障時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色、エラー表示を繰り返すなど異常を感じたときは運転スイッチを押して「切」にしてください。

異常燃焼のおそれがあります。

- 点火不良で、何回も点火操作をしたあと、燃焼バーナー内に燃料がたまり、点火しにくいことがあります。一度たまった燃料を取り出して処分してから再点火してください。
- 万ーストープから火が出たり、床などに火がついたときは、あわてずに消火器で消火してください。
- 「故障・異常の見分けかたと処置のしかた」(21・22・23ページ)に従って処置してください。



使用禁止

★高温部に注意

- 燃焼中や消火直後は、高温部(トッププレート、上面板、外扉、燃焼室扉、燃焼窓、温風吹出口、側板上部、給排気管など)に手や顔などを近づけないでください。やけどのおそれがあります。
- 燃焼中や消火直後は、トッププレートを取り外さないでください。高温になったトッププレートにより、やけどのおそれがあります。



高温注意

★回転体に注意

運転中の燃料タンク内などに手などを入れないでください。燃料タンク底部にある回転物にはさまれ、けがのおそれがあり大変危険です。



注意

★燃料たまり点火の禁止

バーナー内に燃料をためた状態で点火させないでください。不完全燃焼や故障の原因になります。



禁止

★推奨外燃料の使用禁止

- 推奨するホワイトペレット(直径6mm)以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。
- 木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
- 木質ペレットでも、下記の燃料は使用しないでください。



禁止

★粒子状に崩れた粉の多いペレット

燃料経路内に粉がつまり、ペレットを送ることができなくなります。

★湿気を帯びた水分の多いペレット

灰・ススが多くなって燃焼バーナーに灰がたまり、不完全燃焼の原因となります。

★建設廃棄物由来のペレット

建設廃棄物の廃材には防腐剤や接着剤や塗料が含まれる場合があります。燃焼によりこれらに含まれる化学成分(特に塩素)がガス化し、サビや故障の原因となります。

★燃料保管方法の注意

雨風の当たらない屋内で保管してください。湿った燃料を使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。



注意

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず燃料タンク内から燃料を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。



指示

★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。



分解禁止

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因となります。



電源プラグを抜く

★腰をかけたたり物をのせない

ストーブの上ののったり、腰をかけたらないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。ストーブの上に花びんや水を入れた物を置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



禁止

注意(CAUTION)

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、部屋の換気などについて、周囲の人が十分に注意してください。



指示

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(及び金属物)を除去してください。ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



指示

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり、束ねたり、物をのせたり加工しないでください。また、電源プラグを抜くときは、電源コードを持って引き抜かないでください。電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。



禁止

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。(24ページ参照)
燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。



指示

★温風に直接あたらない

温風や輻射熱に直接長時間あたらないでください。低温やけどや、脱水症状になるおそれがあります。温風を直接吸い込まないでください。気分が悪くなる場合があります。



禁止

★可燃性ガス使用禁止

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。



使用禁止

★お手入れの際は、ストーブ及び給排気管が冷えてからおこなってください。

やけど、けがの原因になります。



注意

★大なべ禁止

- トップレートや上面板からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。内部に熱がこもりストーブの故障の原因になったり、やけどしたりするおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。転倒するおそれがあります。



禁止

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだ電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



指示

★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。火災や、排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。



禁止

★換気扇使用禁止

ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。室内が負圧になりわずかなすき間から、排ガスが室内に漏れるおそれがあります。また、換気口・吸気口は常に確保し、物などでふさがらないでください。



使用禁止

★給排気用トップ付近の可燃物近接禁止

給排気用トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。



禁止

★高地(標高800m以上)での使用に注意

高地(標高800m以上)では酸素濃度が薄いため異常燃焼を起こすおそれがあります。標高800m以上で使用する場合は販売店または当社までお問い合わせください。



指示

1 安全のために必ずお守りください

⚠ 注意 (CAUTION)

★ストーブの表面のお手入れには研磨剤の入ったクレンザーなどは使わないでください。

塗装のはがれ、サビの原因になります。



禁止

★燃焼室内お手入れ時の注意

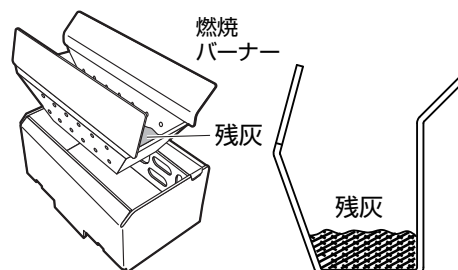
- 燃焼室内は、ベンジン、シンナー、洗剤類、薬品類でふかないでください。
- また、研磨剤の入ったクレンザー、化学雑巾などはご使用にならないでください。変色、塗装のはがれなどの原因になります。



指示

★燃焼バーナー内の残灰蓄積

- 燃焼バーナー内に残灰が蓄積した状態で燃焼を続けると異常燃焼を引き起こし、ススによる壁汚染等の原因となります。
燃焼バーナー内の残灰は掃除し、燃焼バーナーが正しくセットされているか、適切な燃料が使用されているか等を確認してください。
- 短時間(数時間)の使用で図のように燃焼バーナー内に残灰が蓄積する燃料は使用しないでください。



指示

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

- 据付けや移設工事は火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。
- 据付けや移設工事は、販売店または弊社指定店に依頼してください。
- ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は工事説明書のようにしてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- 特に、カーテンなどが本体にふれないようにしてください。
- 家具等からは十分な距離をとってください。
熱で変形や変色、自然発火することがあります。



距離

★火力は正しく調整する

正しく調整されないと、過熱防止装置作動や消火の原因となる場合があります。



指示

★移動・運搬するときの注意

修理、引越しなどでストーブを運搬される時は、燃料タンク内の燃料を抜いてください。



指示

★扉を開け閉めするときの注意

外扉は手掛けで、燃料タンク扉は取っ手で開け閉めをしてください。
燃焼室扉はフックに取り付けた燃焼室扉ハンドルで開け閉めをしてください。
手掛け・取っ手・燃焼室扉ハンドル以外を持つと指を挟みけがをするおそれがあります。



注意

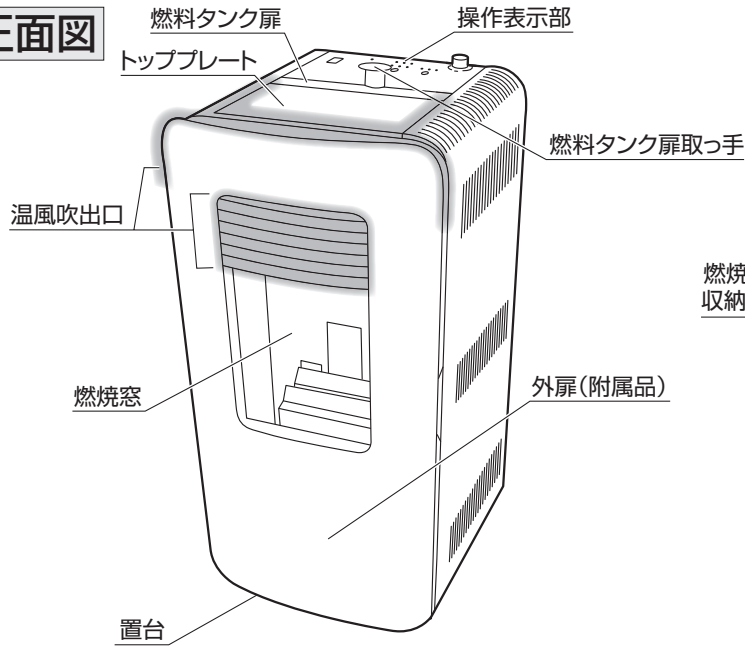
2 使用する場所

★効果的に使用するために

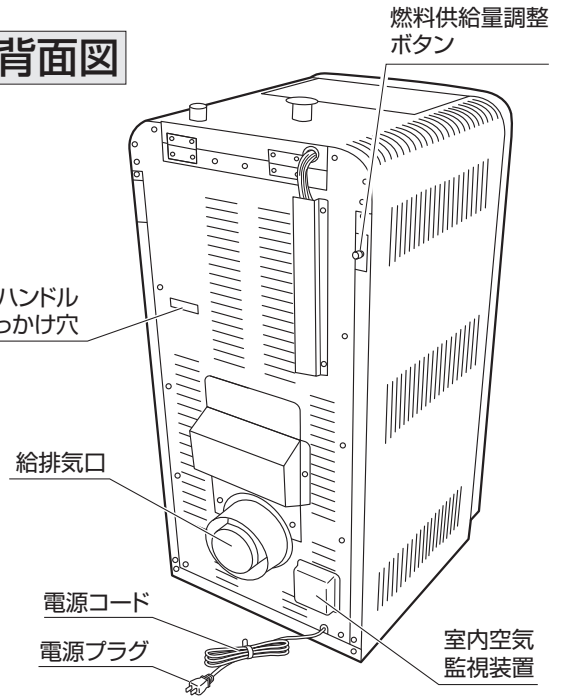
- 冷たい外気に接する窓際や壁際に設置すると、対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。
- ストーブ前方に温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。

3 各部のなまえ

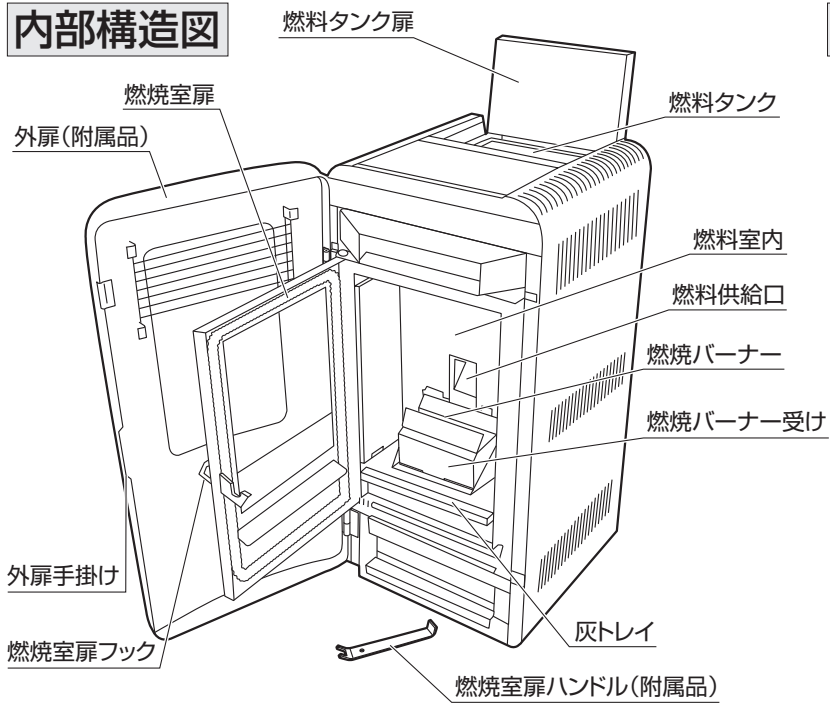
正面図



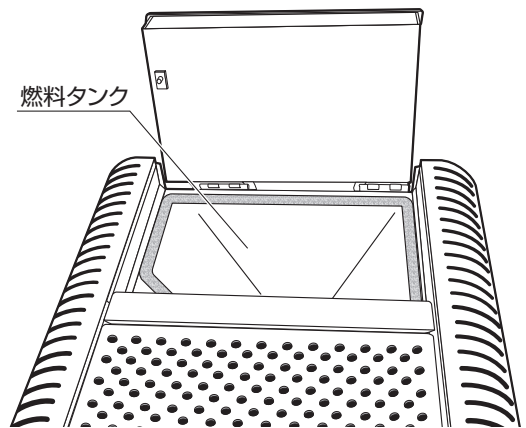
背面図



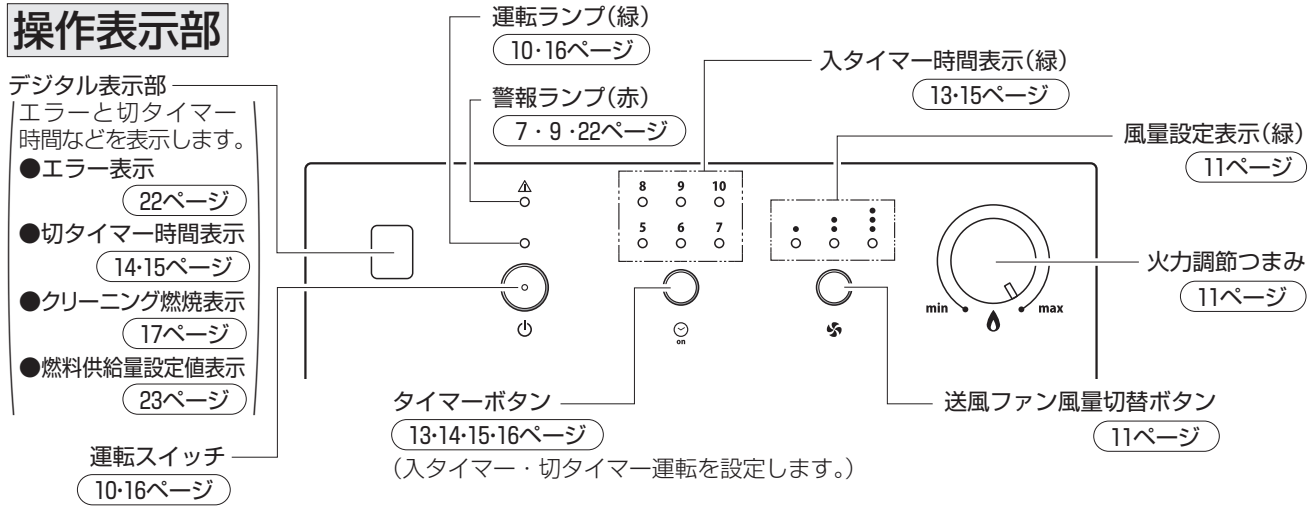
内部構造図



燃料タンク内



操作表示部



4 使用前の準備

木質ペレット燃料について

●木質ペレットは、推奨燃料を必ず使用してください。

[推奨燃料] ホワイトペレット(直径6mm)

- 燃料タンクを空にしないように注意してください。空になるまで燃焼させると燃焼不良により排気口から白煙や臭気が発生する場合があります。



警告

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。



禁止



注意

★推奨外燃料の使用禁止

- 推奨するホワイトペレット(直径6mm)以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。
- 木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
- 木質ペレットでも、下記の燃料は使用しないでください。



禁止

粒子状に崩れた粉の多いペレット

燃料経路内に粉がつまり、ペレットを送ることができなくなります。

湿気を帯びた水分の多いペレット

灰・ススが多くなって燃焼バーナーに灰がたまり、不完全燃焼の原因となります。

建設廃棄物由来のペレット

建設廃棄物の廃材には防腐剤や接着剤や塗料が含まれる場合があります、燃焼によりこれらに含まれる化学成分(特に塩素)がガス化し、サビや故障の原因となります。

燃料の保管方法

直射日光が当たる場所では、保管しないでください。結露の原因となります。
湿度の高い所や雨風の当たらない屋内で保管してください。
結露や湿気や雨で湿ったペレットを使用すると故障や燃焼不良の原因になります。
また、ペレットが湿気を含んで膨れてしまうと、ペレットが粒子状に崩れる恐れがあります。

燃料供給のしかた



注意

★燃料供給時消火

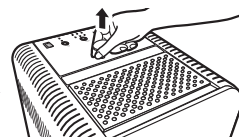
燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。



消火

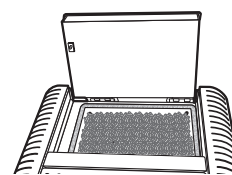
1 燃料タンク扉を開ける。

- 燃料タンク扉の取っ手を持ち上げて開けます。
- 燃料タンク扉は、止まるところまで開けてください。途中で燃料タンク扉の取っ手をはなすと燃料タンク扉が閉まりけがをするおそれがあります。



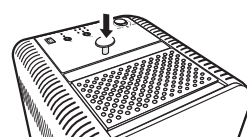
2 燃料タンク内に燃料を投入する。

- 燃料タンク上面1cm付近まで投入する。
- 燃料は燃料タンク内に均一になるようにならしながら投入してください。



3 燃料タンク扉を確実に閉める。

- 燃料タンク扉の取っ手を持ってゆっくりと閉めてください。
- 燃料タンク扉が確実に閉まっているか確認してください。
異常燃焼を起こすことがあります、危険です。
- 燃料タンク扉が開いたまま正しく閉まっていない状態で運転すると、警報ランプが点灯するとともにデジタル表示部に「1」又は「4」を表示して運転が停止します。



点火前の準備と確認

お願い

- 燃料タンクは空にしないでください。
タンクが空になるまで燃焼させると燃焼不良により排気口から白煙や臭気が発生する場合があります。
- 設置後初めての使用時、燃料を切らしたときなどは「燃料供給口」から燃料がでてくることを確認して一旦「運転スイッチ」を「切」にしてから再度「入」にしてください。

1 ストープ周辺を確認する。

- ストープ周辺及び給排気管の周囲に引火物や可燃物を置かないでください。
火災や予想しない事故の原因になります。

2 給排気管が正しく接続されているか確認する。

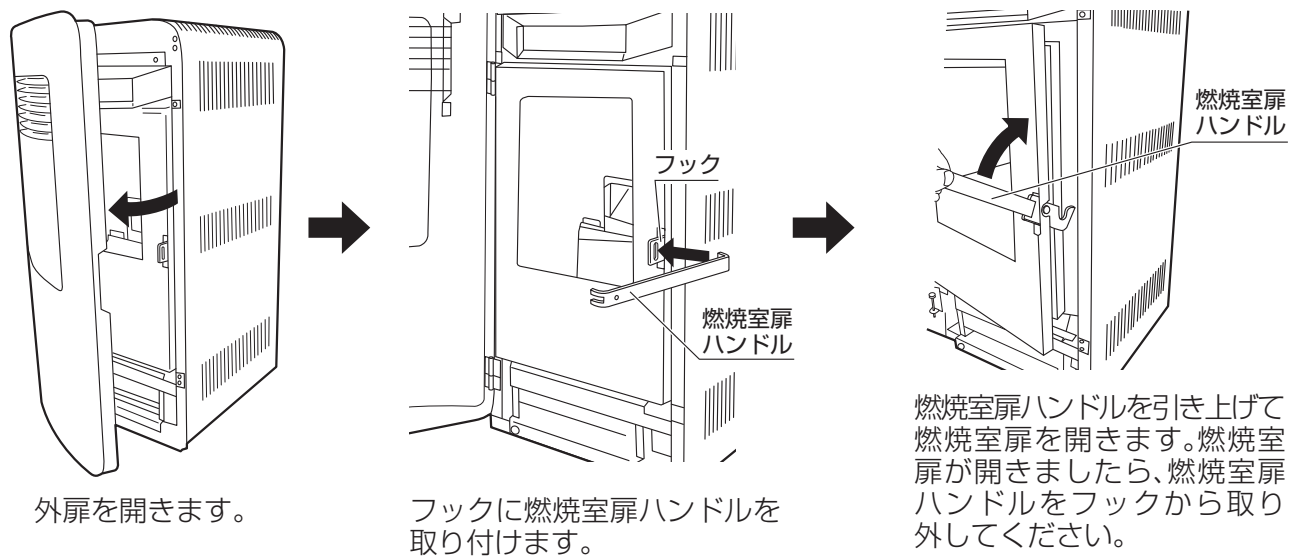
- 給排気管が外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。

3 燃料が入っているか確認する。

- 燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。
- 木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災や故障・燃焼不良の原因になります。
- 推奨以外の燃料の使用はストープに支障をきたす場合があります。

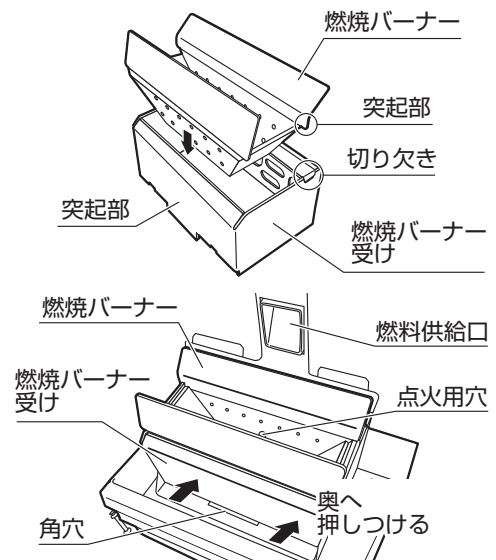
4 外扉を開いてから、燃焼室扉を開ける。

- ストープの温度が充分下がっていることを確認してからおこなってください。
- 燃焼室扉は、付属品の燃焼室扉ハンドルを使用して、次の手順で、燃焼室扉を開いてください。



5 燃焼室内を確認する。

- 燃焼室内に異物がないか、また極度の汚れや灰がないかを確認してください。
※灰トレイに灰がたまっている場合は、**灰処理のしかた** (17ページ)を参照してたまった灰を除去してください。
- 燃焼バーナー内に灰がたまっていないか確認してください。
※たまっている場合は、**燃焼室の燃焼バーナーにたまった燃焼設、灰の除去** (19ページ)を参照し、灰を除去してください。
- 燃焼バーナーを燃焼バーナー受けに正しく取り付けてください。
※燃焼バーナー左右の突起部が燃焼バーナー受けの切り欠きに入っているか確認してください。
※燃焼バーナーの取り付けは中央に点火用穴があいている側が奥側になるように取り付けてください。
- 燃焼バーナー受けの下部の突起部が角穴に確実に、はまっているか確認してください。はまっていない場合は、一旦燃焼バーナー受けを持ち上げてから、再度突起部を角穴に入れ直してください。また燃焼バーナーおよび燃焼バーナー受けは奥に押し付けてください。
- 燃焼バーナー内に燃料がたまっている場合は取り除いてください。

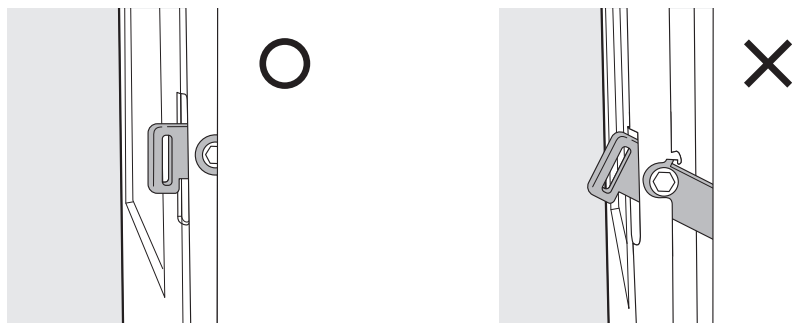


4 使用前の準備

6 燃烧室扉を閉めてから、外扉を閉める。

- フックに燃烧室扉ハンドルを取り付けて、燃烧室扉を閉めてください。
- フックから燃烧室扉ハンドルを取りはずし、燃烧室扉が確実に閉まっていることを確認してから、外扉を閉めてください。

[燃烧室扉] 確実にロックされていること



7 燃料タンク扉が閉まっているか確認する。

[燃料タンク扉] 確実に扉が閉まっていること。



※燃料タンク扉が開いたまま運転すると警報ランプが点灯し運転停止します。

8 電源プラグをコンセント(家庭用AC100V)に確実に差し込む。

- 電源は必ず100V 12A以上の専用コンセントをお使いください。

お願い

- 燃烧室扉・燃料タンク扉は、確実に閉めてください。また、外れがないことを確認してください。すき間・外れがあると点火不良、燃烧不良を起こしたり、運転中に排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。
- 床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがありますので、別売の炉台(フロアプレート)などを敷いてください。

5 使いかた

点火のしかた



警告

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。



注意

★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。



注意

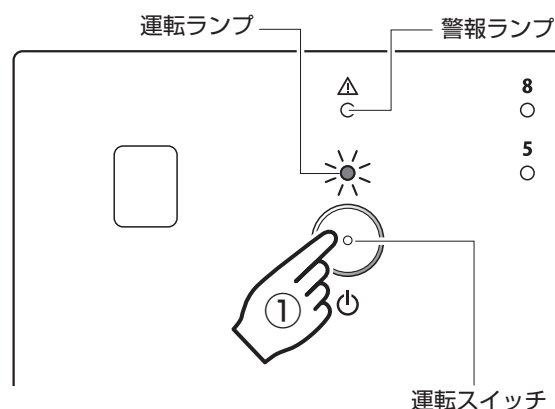
⚠️ 注意

- 点火前には必ず燃焼バーナー内の燃料をすべて取り去ってください。
- 点火不良で、何回も点火操作をすると、燃焼バーナー内に燃料がたまり、燃料がたまった状態で点火すると、大きな音がしたり、多量の白煙が発生する場合があります。また、点火後も過剰燃焼して炎が大きくなり、燃焼バーナー外に燃料がはみ出して灰トレイへ燃焼殻が落ちたりします。このようなときは、あわてずに「運転スイッチ」を押して「切」にし、たまった燃料が燃えつきるまで待ってください。電源プラグはコンセントから絶対に抜かないでください。



① 「運転スイッチ」を押して「入」にする。

- ピッという音がして「運転ランプ」が点滅します。



お願い

- 初めて運転するときや、燃料タンクを空にして燃料補給したあとなどは、燃料経路内に燃料が満たされていないことにより、点火できないことがあります。このようなときは、燃料供給口から燃料が出てくることを確認してから、一旦「運転スイッチ」を押して「切」にし、再び「運転スイッチ」を「入」にしてください。
- 「運転スイッチ」を「入」にしたあと、13～15分経過後に「警報ランプ」が点灯とともにデジタル表示部に「7」（点火不良）が点灯した場合、「運転スイッチ」を押して「切」にし、再び「運転スイッチ」を「入」にしてください。
※ 燃焼バーナー内に燃料が残っている場合は除去してから再運転してください。

② 3～8分後に自動的に点火します。

③ 運転開始後13～15分経過すると初期運転が終了して本燃焼に入り、「運転ランプ」が点滅から点灯に切り替わります。

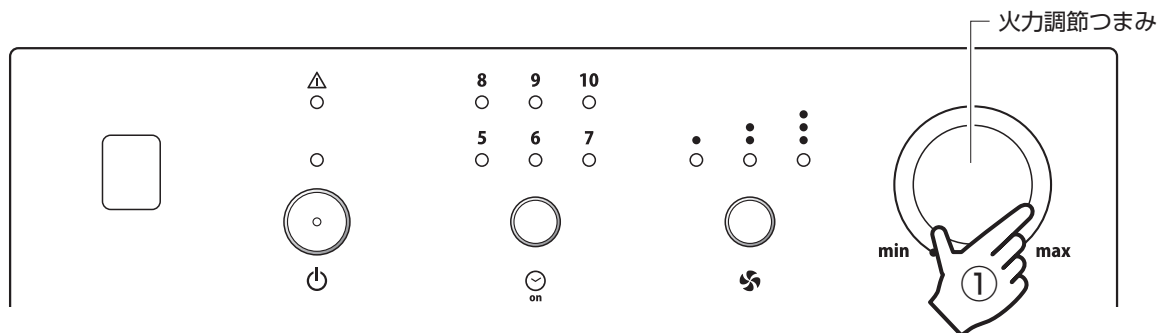
お願い

- 点火時には室外に設置している給排気用トップより白い煙が出ることがありますが異常ではありません。しばらくすると煙は出なくなります。
- 運転開始後13～15分間は初期運転となります。初期運転中は火力調節ができません。また初期運転中は炎が不安定になることがあります。異常ではありません。
- ご購入されて初めて使用されるときに、製品の塗料やパッキンなどの焼けるようなにおいがする場合があります。このような場合は、お部屋の窓を少し開け、半日から1日程度、火力「max」で運転をしてください。
- 運転中はときどき燃料タンク内の燃料をならしてください。但し、運転中に燃料タンク扉を開けたままにすると約1分後に警報ランプが点灯するとともにデジタル表示部に「1」を表示して運転が停止します。
- タンク内の燃料が少なくなったら補給してください。
※ タンクが空になるまで燃焼させると燃焼不良により排気口から白煙や臭気が発生する場合があります。

5 使いかた

火力調節(初期運転終了後にしかできません)

初期運転中(運転スイッチを押してから13~15分間)は火力調節ができません。



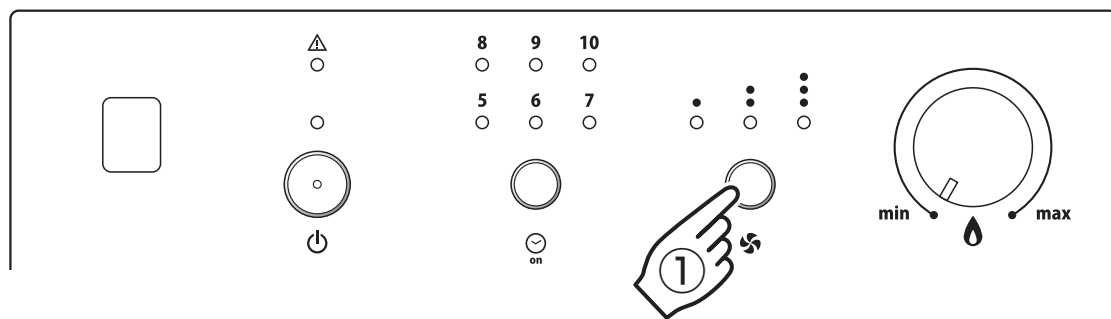
① 「火力調節つまみ」をまわす。

「火力調節つまみ」をmin(最小)~max(最大)までお好みに応じて調節してください。

送風ファン風量切替のしかた

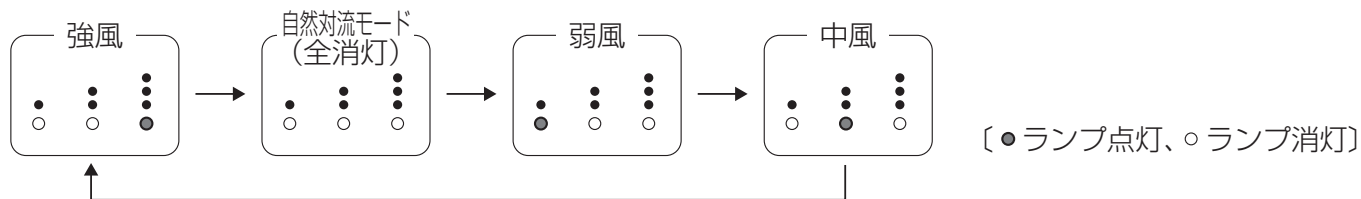
初期運転中は点火して温度が上昇するまでしばらくの間は送風ファンは動きません。

また、初期運転中の送風ファン風量は中風に固定されます。

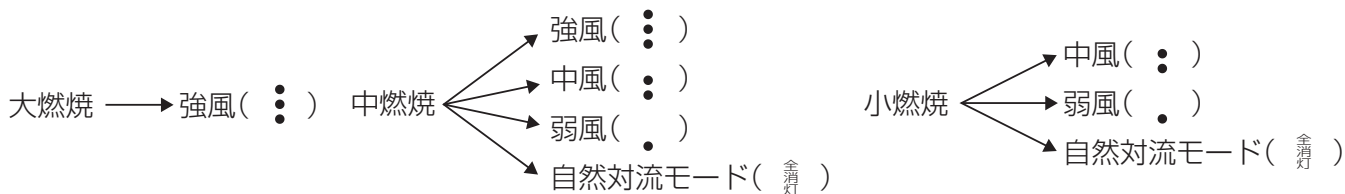


① 運転中に「送風ファン風量切替ボタン」を押して送風ファンの風量を切替します。

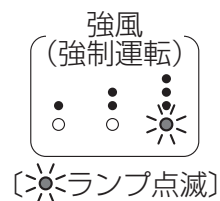
- 購入後初めてお使いになるときは強風(●●●)状態で運転開始します。
- ボタンを押すごとに強風(●●●)→自然対流モード(●●●)→弱風(●●)→中風(●●●)…の順に風量が切替わります。




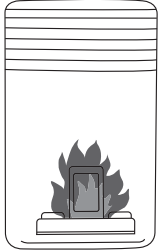
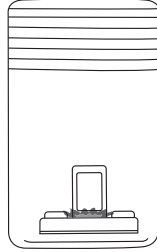
- 燃焼量によっては、設定できない風量があります。設定可能な風量の目安は以下の通りです。



- 大燃焼で約20分以上連続運転後、中燃焼や小燃焼にして、風量を「強風」以外の「中風」・「弱風」・「自然対流モード」に設定されても、約15分間は「強風」で強制運転をします。強制運転中は、強風ランプが点滅します。強制運転終了後は、設定された風量で運転をします。強制運転中でも、風量設定の変更は可能ですが、風量が切替わるのは強制運転終了後からです。



炎の状態(ここに表示した状態は最大燃焼の状態です)

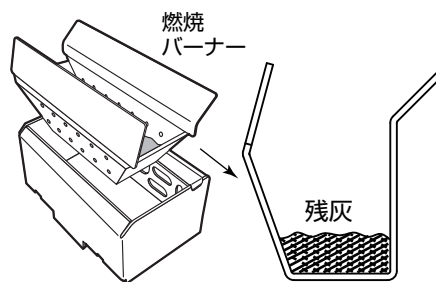
	正 常	異 常 	使用禁止
炎の図		 ～空気不足燃焼～	 ～空気過剰燃焼～
状態	<ul style="list-style-type: none"> ● 炎の色は、明るい黄色かオレンジ炎。 ● 燃焼バーナー内の燃焼殻が適度に残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 炎の先端がオレンジ炎でゆらゆら燃えている。 ● 燃焼バーナー内の燃焼殻がたまり気味である。 ● 燃焼窓のガラスにススが付着する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 炎がバーナーから出ることがなく、常に小さいままである。
原因	_____	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃焼用空気不足。 ● 燃料供給量過多。 ● 推奨燃料以外で燃焼した為。 ● 排気経路に灰等がたまった為。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃焼用空気過多。 ● 燃料供給量減少。 ● 推奨燃料以外で燃焼した為。
処置	_____	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃焼バーナー内の穴の詰まりを掃除する。 ● 排気経路を掃除する。 ● 販売店にご相談ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大燃焼時の炎が大きすぎたり、小さすぎたりする場合(23ページ)を参照し、火力を調整してください。 ● 販売店にご相談ください。

● 初期運転終了後に、正常に燃焼しているかどうか、燃焼窓から見て必ず確認してください。

注意

★燃焼バーナー内の残灰蓄積

- 燃焼バーナー内に残灰が蓄積した状態で燃焼を続けると異常燃焼を引き起こし、煤による壁汚染等の原因となります。
燃焼バーナー内の残灰は掃除し、燃焼バーナーが正しくセットされているか、適切な燃料が使用されているか等を確認してください。
- 短時間(数時間)の使用で図のように燃焼バーナー内に残灰が蓄積する燃料は使用しないでください。



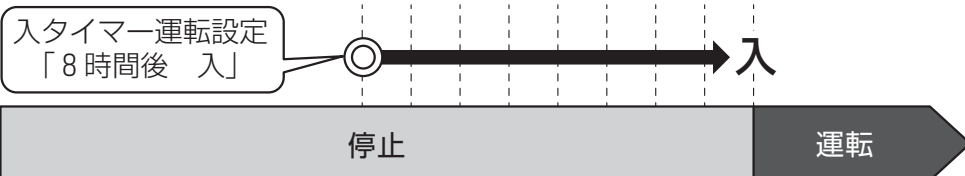
- ★ 燃焼中、炎がかたよったり火の粉が混ざったり、上下変動することがありますが異常ではありません。
- ★ 燃焼中、「ガリガリ」と音をたてる場合があります。

5 使いかた

入タイマー運転のしかた

設定のしかた 停止中のみ設定可能です。

設定例 「8時間後 入」を設定→設定したときから8時間後に運転が開始



① 停止中に「タイマーボタン」を押す。

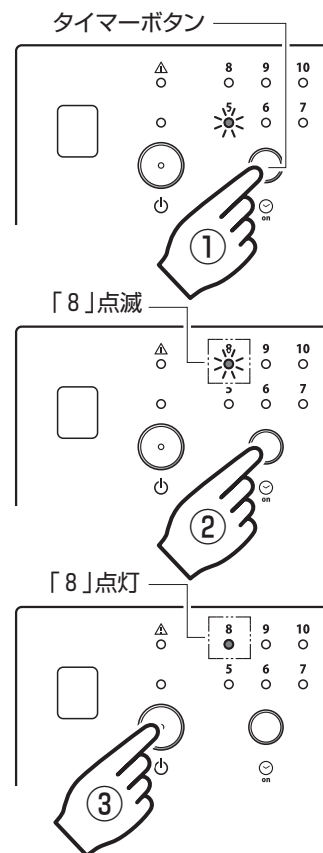
「入タイマーランプ」が点滅します。

※前回設定したタイマー時間のランプが点滅します。
初めて設定するときは「5(時間)」のランプが点滅します。

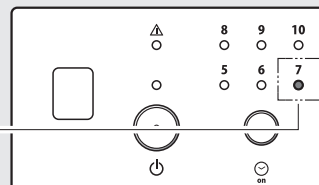
② 「入タイマーランプ」が点滅している間に「タイマーボタン」を押して「8(時間)」の位置に合わせます。

※タイマー設定中に「タイマーボタン」を押すと 5→6→7→8→9→10→5→6…の順に切り替わります。

③ 入タイマー時間設定中(「入タイマーランプ」点滅中)に運転スイッチを押すと「入タイマーランプ」が点灯にかわり入タイマー運転のセットが完了します。



- 設定できなかった場合(入タイマーランプ消灯)は、もう一度「タイマーボタン」を押してやり直してください。
- 入タイマー運転待機中の表示は、時間経過とともに入タイマーランプが切り替り、残り時間の目安を表示します。
(例)「8時間後 入」を設定後に1時間経過時の表示内容。
(入タイマーランプ「7」が点灯。7時間後に運転開始。)
※残り時間が5時間以下の場合は「5」が点灯。



④ 入タイマー運転を設定したときから、設定時間後に運転開始します。

- 入タイマー運転を設定後に、入タイマー運転時間を変更する場合は、「タイマーボタン」を押して時間を変更し、そのまま10秒経過すると「入タイマーランプ」が点滅から点灯にかわり、変更受付が完了します。

解除のしかた 入タイマー運転の設定をした後、入タイマー運転開始前に通常運転をおこないたい場合。

① 「運転スイッチ」を押して「切」にする。→[入タイマー運転の解除]

② 「運転スイッチ」を再度押して「入」にする。→[通常運転開始]

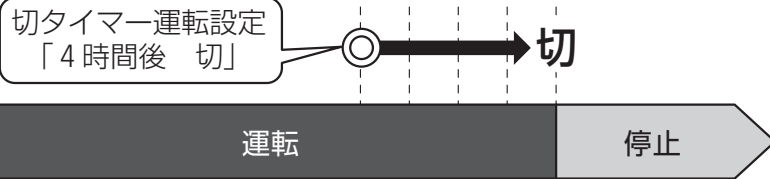
お知らせ

- タイマー運転操作後に停電があったときや、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したとき、電源プラグを抜いたときは点火しません。

切タイマー運転のしかた

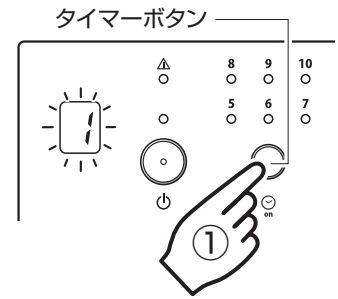
設定のしかた 運転中のみ設定可能です。

設定例 「4 時間後 切」を設定→設定したときから 4 時間後に運転が停止



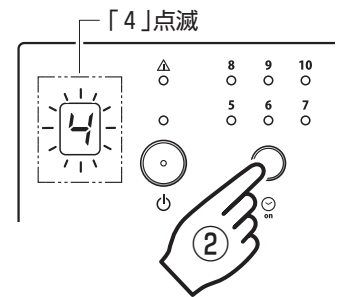
① 運転中に「タイマーボタン」を 3 秒以上長押しする。

デジタル表示部に「切タイマー時間」を表示し、表示が点滅します。
 ※前回設定した「切タイマー時間」が点滅します。
 初めて設定するときは「1 (時間)」の表示が点滅します。

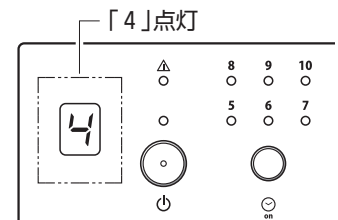


② デジタル表示部の「切タイマー時間」が点滅している間に「タイマーボタン」を押して「4 (時間)」に合わせます。

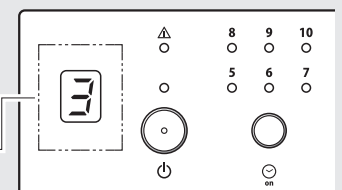
※タイマー設定中に「タイマーボタン」を押すと 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 1 → 2 ……の順に切り替わります。



③ そのまま操作せずに約 10 秒経過すると、デジタル表示部の「切タイマー時間」が点滅から点灯にかわり、切タイマー運転のセットが完了します。



- 設定できなかった場合 (デジタル表示部の「切タイマー時間」が消灯) は、もう一度「タイマーボタン」を 3 秒以上長押ししてやり直してください。
- 切タイマー運転待機中は、時間の経過とともにデジタル表示部の「タイマー時間」が切り替り、残り時間の目安を表示します。
 (例)「4 時間後 切」を設定後に 1 時間経過時の表示内容。
 (「切タイマー時間」が「3」を表示。3 時間後に運転停止。)



④ 切タイマー運転を設定したときから、設定時間経過後に運転を停止します。

- 切タイマー運転は、一度切タイマー運転時間を設定すれば、変更しない限り、運転中に「タイマーボタン」を 3 秒以上長押しするだけで同一時間で設定が完了します。
- 切タイマー運転を設定後に、切タイマー運転時間を変更する場合は、設定を解除してからやりなおしてください。

解除のしかた 切タイマー運転の設定をした後、通常運転にもどす場合。

① 「タイマーボタン」を 3 秒以上長押しする。

デジタル表示の「切タイマー時間」が消灯して、通常運転にもどります。

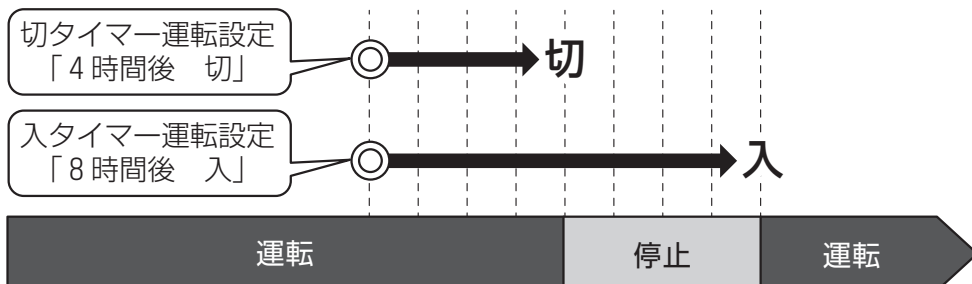
5 使いかた

〔切⇒入〕タイマー運転のしかた

設定のしかた

〔切⇒入〕タイマー運転は、運転中に切タイマー運転を設定してからでないと、入タイマー運転を設定できません。

設定例 「4 時間後 切」を設定した後、「8 時間後 入」を設定



※入タイマー運転を設定してから8時間後に運転が再開します。

① 「4 時間後 切」の切タイマー運転を設定します。

※14ページと同じ手順で設定します。

② 「送風ファン風量切替ボタン」を3秒以上長押しして〔切⇒入〕タイマー運転の入タイマー時間を設定します。

「入タイマーランプ」が点滅します。

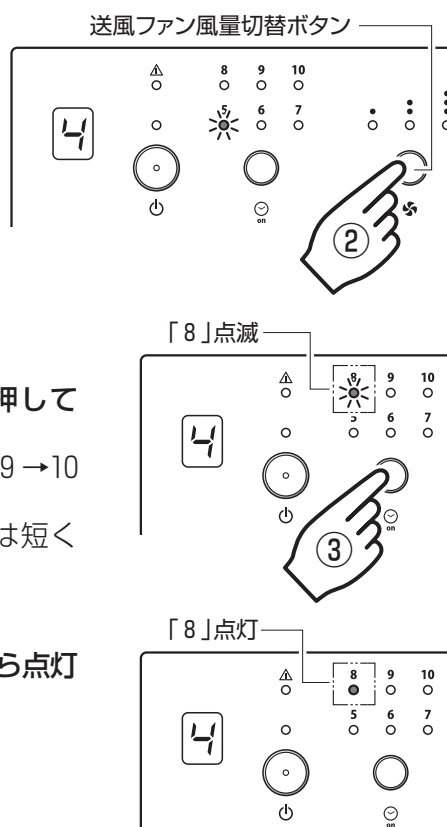
※前回設定した入タイマー時間のランプが点滅します。初めて設定するときは「5 (時間)」のランプが点滅します。

③ 「入タイマーランプ」が点滅している間に「タイマーボタン」を押して「8 (時間)」の位置に合わせます。

※入タイマー設定中に「タイマーボタン」を押すと 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10 → 5 → 6 …の順に切り替わります。

※「切タイマー」の残り燃焼時間よりも、「入タイマー」の設定時間は短くすることはできません。

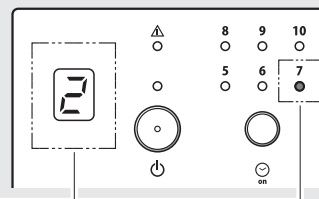
④ そのまま操作せずに約10秒経過すると「入タイマーランプ」が点滅から点灯にかわり、〔切⇒入〕タイマー運転のセットが完了します。



- 〔切⇒入〕タイマー運転待機中は、時間の経過とともにデジタル表示部の「切タイマー時間」と入タイマーランプがそれぞれ切り替り、残り時間の目安を表示します。

(例)「4 時間後 切」を設定した後、1 時間後に「8 時間後 入」を設定し、1 時間経過時の表示内容。

(入タイマーランプ「7」が点灯、デジタル表示部の「切タイマー時間」が「2」を表示。)



⑤ 切タイマー運転を設定したときから、設定時間経過後に運転を停止し、入タイマー運転を設定したときから、設定時間経過後に運転を再開します。

- 〔切⇒入〕タイマー運転の入タイマー時間は、一度入タイマー運転時間を設定すれば、変更しない限り、運転中に「送風ファン風量切替ボタン」を3秒以上長押するだけで同一時間で設定が完了します。
- 〔切⇒入〕タイマー運転を設定後に、切タイマー時間や入タイマー運転時間を変更する場合は、設定を解除してからやりなおしてください。

解除のしかた

[入タイマー運転のみ解除して、切タイマー運転はそのまま継続する場合]

① 「送風ファン風量切替ボタン」を3秒以上長押しする。

[切タイマー運転と入タイマー運転ともに設定を解除して、通常運転にもどす場合]

① 「タイマーボタン」を3秒以上長押しする。

お知らせ

- タイマー運転操作後に停電があったときや、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したとき、電源プラグを抜いたときは点火しません。

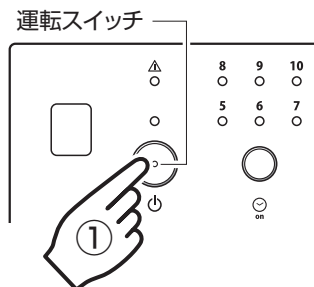
消火のしかた

① 「運転スイッチ」を押して「切」にする。

- 消火操作をすると、ランプがすべて消灯し、燃料供給が止まります。

② 消火を確認する。

- 消火操作をしたときは、すべてのランプ消灯とバーナー内の火が消えることを確認してください。



「運転スイッチ」を押して「切」にしたあと約30分は送風用ファンと燃焼用送風機が回転し続けます。その後自動的に停止します。送風用ファンと燃焼用送風機が止まるまで、電源プラグを抜かないでください。

お願い

- ★消火は必ず「運転スイッチ」を使用してください。
電源プラグをコンセントから抜き取って消火することは、絶対にやめてください。
(機器が異常過熱したり、事故の原因になります。)
- ★点火した後すぐ消火することはやめてください。燃焼バーナー内に燃料があふれたり着火しにくくなったりします。15分間位は燃焼してから消火してください。

消火後再点火するときの注意

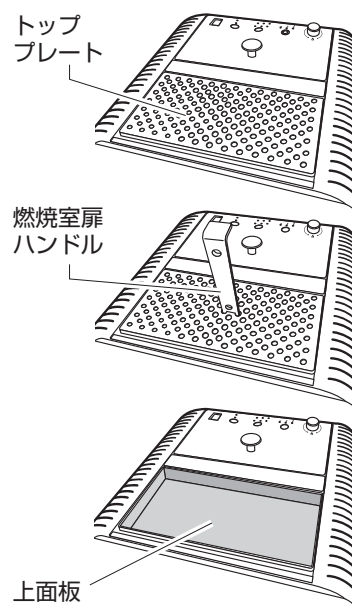
- ★着火前に「運転スイッチ」を押して「切」にし、再度「運転スイッチ」を押して「入」にした場合、燃焼バーナー内に燃料が多くなり、燃料が燃焼バーナー外にあふれ出ることがあります。一度たまった燃料を取り除いてから再点火してください。

トッププレートの使いかた

- トッププレートの上にやかんなどをのせて、水などをあたためます。
- お湯を沸かすときは、トッププレートを取りはずし、上面板に直接やかんなどをのせてください。トッププレートの取りはずしは、燃焼室扉ハンドルの突起部をトッププレートの穴に差し込んで持ち上げます。

お願い

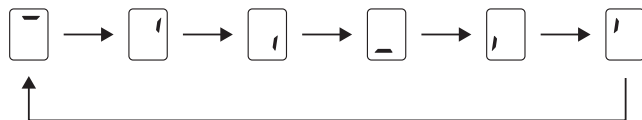
- 燃焼中や消火直後は、トッププレートを取り外さないでください。高温になったトッププレートによりやけどのおそれがあります。トッププレートのはめ、はずしは、ストーブが完全に冷えた状態でおこなってください。
- 上面板の枠(加熱部)より大きなやかんなどをのせないでください。転倒や落下のおそれがあります。また、お湯を沸かすことができなかつたり、内部に熱がこもり予想しない事故が発生したりします。



5 使いかた

クリーニング燃焼表示

- クリーニング燃焼は、燃焼バーナー内の汚れを除去するための燃焼です。
- 約1時間以上の連続運転をしますと、デジタル表示部を下記の順で点灯して、自動クリーニング燃焼をおこないます。(約5分間)
その後、自動的にもとの燃焼状態にもどります。

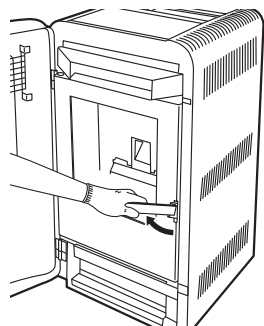


灰処理のしかた

- 必ず消火後、ストーブが完全に冷えた状態でおこなってください。
- 灰は木灰として、菜園などに有効に活用できます。
廃棄物として廃棄する場合、各市町村によって回収方法が異なりますので、各市町村にご確認ください。

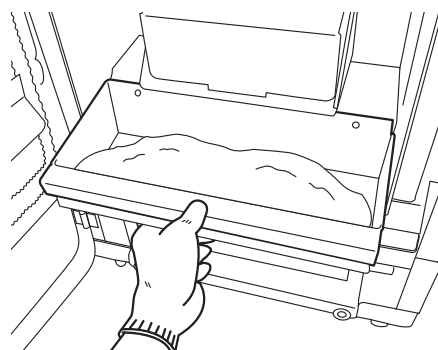
1 外扉を開いてから燃焼室扉を開ける。

燃焼室扉ハンドルをフックに取り付け、燃焼室扉を下図のようにして開けてください。



2 灰トレイを引き出す。

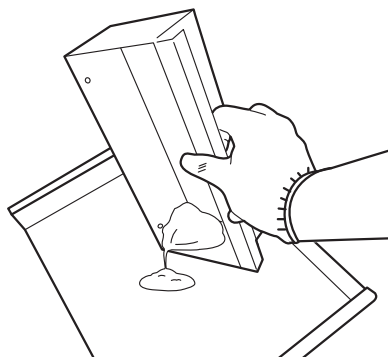
灰トレイを手前側に、引き出してください。



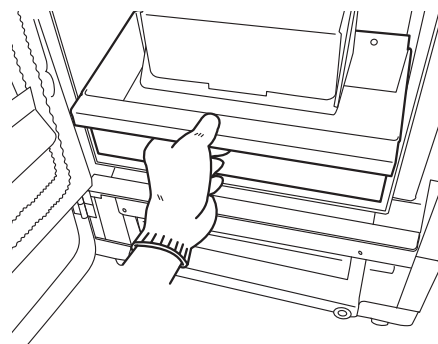
お願い

燃焼室内や灰トレイは消火後もしばらくの間は高温ですので、灰処理は灰トレイが完全に冷えたことを確認してからおこなってください。

3 灰トレイの灰を金属容器などに入れてから除去する。



4 灰トレイを元に戻す。



お願い

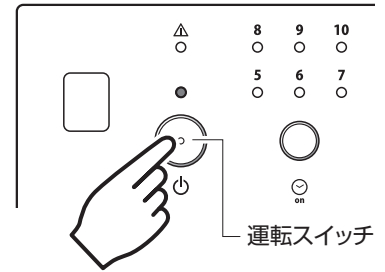
金属容器に入れた灰は、完全に冷えた状態で処分してください。

5 燃焼室扉を閉めてから、外扉を閉める。

燃焼室扉を閉め、燃焼室扉ハンドルを取り外してから、外扉を閉めてください。

6 安全装置

- ★安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、販売店にご相談ください。
- ★再点火操作とは、一度「運転スイッチ」を押して「切」にしてから、再び押して「入」にすることをいいます。



安全装置名	はたらき	処置
点火安全装置	●運転スイッチを「入」にして13～15分経過しても着火しない場合、燃料供給と点火ヒーターを停止させる安全装置です。	●何回も再点火操作をしたときは、燃焼バーナーに燃料がたまっています。たまった燃料を取り出してから再点火操作をしてください。 ●燃料タンクに充分燃料があるか確認してください。
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	●燃焼バーナーの穴が目詰まりしていないか、排気経路に灰が詰まっていないかを確認してください。
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどしたときは、自動的に運転を停止します。 ●再び通電されても運転しません。 ●タイマー運転中に停電があった場合、タイマー運転は解除されます。	●再通電後に再点火操作をしてください。
過熱防止装置	●異常燃焼などの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●異常過熱の原因を除いてから、再点火操作をしてください。 (販売店にご相談ください)
逆風安全装置	●排気側(排気管・給排気用トップ)に、逆風による異常な逆圧がかかった場合、燃焼を停止します。	●風がおさまってから再運転してください。 ●燃焼室の上部が灰等で閉そくされていないかどうか、確認してください。 ●室外の給排気用トップが閉そくされていないか確認してください。 (販売店にご相談ください)
対震自動消火装置	●運転中にストーブ本体が地震(震度約5以上)や強い震動、衝撃を受けた場合、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。 ●タイマー運転中に対震自動消火装置が作動した場合、タイマー運転は解除されます。	●地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、給排気管の外れなど異常がないことを確認してから再点火してください。
室内空気監視装置	●運転中にストーブ本体付近の室内空気に汚れが発生したとき、自動的に運転を停止します。	●たばこ等の煙が充満したり、他の燃焼機器の燃焼ガスによって誤作動する事がありますので部屋の換気をしてください。 ●機器の損傷、給排気管の外れなど異常のないことを確認してから再点火ください。
逆防火防止装置	●運転中に燃料タンク扉を開けた場合、燃焼室の燃料供給口へ炎が侵入し燃料に着火するのを防止する装置です。	●燃料タンク扉が開いていないか確認してください。

7 日常の点検・手入れ

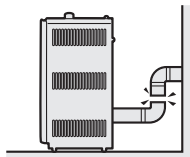
お願い

- ★点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってから電源プラグをコンセントから抜いて、おこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。
- ★部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- ★ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
- ★電装品の取りはずし、分解はおこなわないでください。

シーズンはじめ

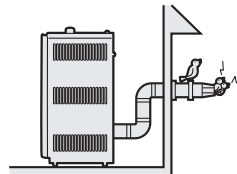
給排気管

- 給排気管の接続箇所が外れていないか確認してください。



給排気用トップ

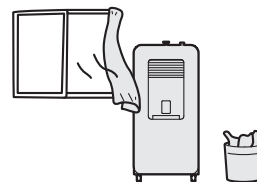
- 室外の給排気用トップが鳥の糞やビニール袋などでふさがれていないか確認してください。



使用のたびに

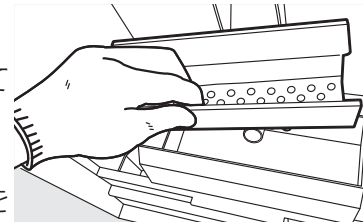
周囲の可燃物

- ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
- ストーブはいつも清潔に掃除してください。汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。
- 給排気管・給排気用トップの周囲には、危険物や障害物がないようにしてください。



燃焼室の燃焼バーナーにたまった燃焼殻、灰の除去

- 使用時間や燃料の質・状態によって灰量は異なります。燃焼室内の燃焼バーナーに灰がたまっていないか確認してください。掃除用ホウキや掃除機などで燃焼バーナー内及び燃焼バーナーの穴を掃除してください。掃除後は中央の点火用穴が奥側になるよう、正しく取り付けてください。
- ★燃焼バーナーに灰が詰まった状態で燃焼をおこなうと着火しにくくなります。また、燃焼に必要な空気が充分に取り入れることができなくなり、不完全燃焼を引き起こし、ススによる壁汚染等の原因になります。

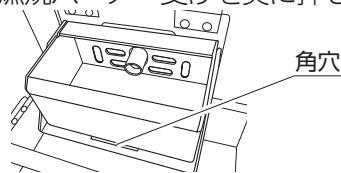


お知らせ

- 別売りの灰用掃除機を用意しています。灰の掃除にご使用ください。
- 紙パック式の掃除機や家庭用掃除機はご使用をお控えください。フィルターが目詰まりしやすく、数回のご使用で掃除機が故障するおそれがあります。

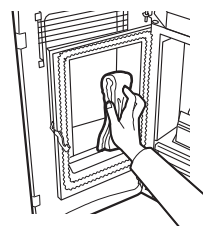
燃焼バーナー受けにたまった灰を除去

- 燃焼バーナーを取り出してから、燃焼バーナー受けを取り出してください。燃焼バーナー受けにたまった灰を掃除用ホウキで灰トレイに落したり、掃除機で吸い取ってください。掃除後は燃焼バーナー受け下部の突起部を角穴に挿入し、燃焼バーナー受けを奥に押し付けてください。



燃焼窓のガラスのクリーニング

- ガラスはススや灰などが付着して汚れてきます。固めにしぼったぬれ雑巾などでススを拭きとってください。
- 研磨剤の入ったクレンザーなどは使用しないでください。



1週間に1回以上

燃焼室のクリーニング

- 燃焼室内にたまった灰やススは、やわらかいブラシや乾いた布などを使用して掃除してください。

注意

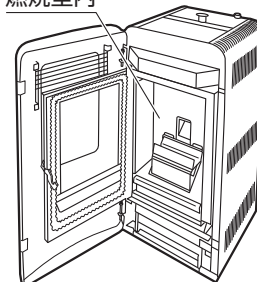
★燃焼室内お手入れ時の注意

燃焼室内は、ベンジン、シンナー、洗剤類、薬品類でふかないでください。また、研磨剤の入ったクレンザー、化学雑巾などは、ご使用にならないでください。変色、塗装のはがれなどの原因になります。また、燃焼室内の断熱材は水分を含むと破損しやすくなるため、必ずやわらかいブラシや乾いた布を使用してください。



指示

燃焼室内



1箇月に1回以上

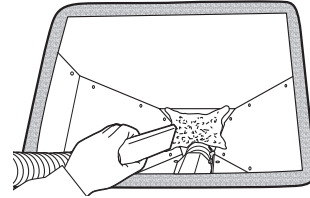
燃焼タンクの掃除

お願い

タンク内を掃除するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、おこなってください。

燃料タンクの底に燃料の粉がたまってくると燃料を送り出す量が少なくなる場合があります。
定期的にタンク内の掃除をおこなってください

- ① 手やスコップ等で燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
- ② 燃料タンクの底にたまっている粉を掃除機などで除去してください。



1シーズンに1~2回以上

電源プラグ、コンセント

- 電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると火災の原因になることがあります。電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

給気経路・排気経路の掃除

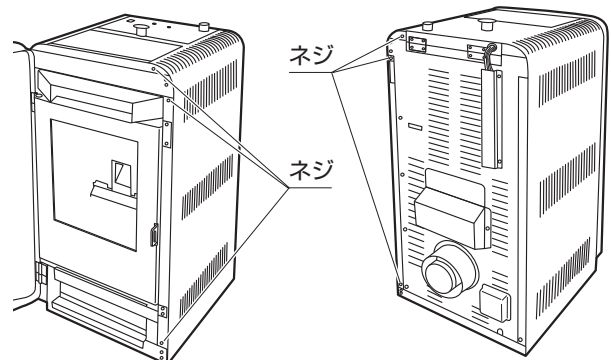
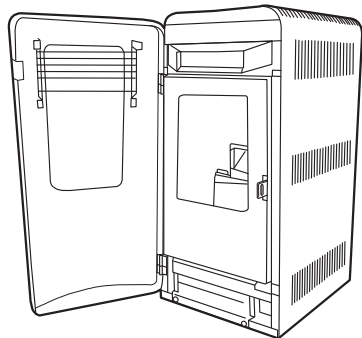
- ほこりやススなどの汚れが給気経路・排気経路に蓄積すると、燃焼に悪影響する場合があります。販売店にご相談して定期的に掃除するようにしてください。

燃焼室底の掃除 必要な工具：8mmスパナ・プラスドライバー

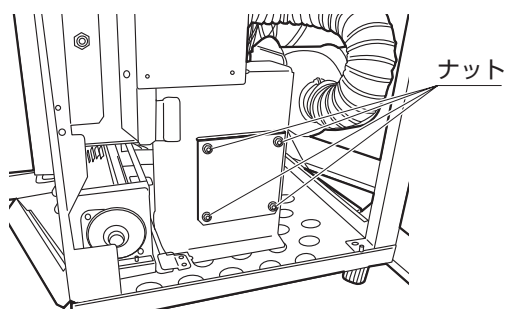
お願い

燃焼室底の掃除をするとき、必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってから電源プラグをコンセントから抜いて、おこなってください。やけどや感電するおそれがあります。

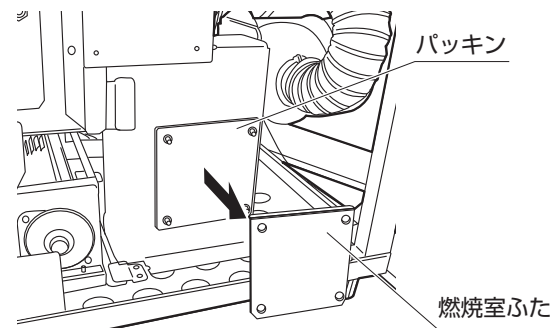
- ① 外扉を開けます。
- ② ストーブ右側面のパネルを、ねじ 6 本をプラスドライバーで外し、取り外します。



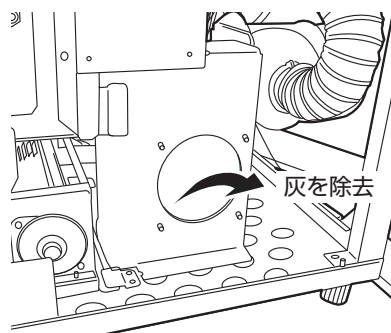
- ③ 燃焼室ふたのナット 4 個をスパナで外します。



- ④ 燃焼室ふたを手前側に、取りはずします。
※パッキンを破損しないように取りはずしてください。



- ⑤ 中にたまった灰を掃除機などで除去します。



- ⑥ 燃焼室ふたを元通りに取り付けます。
※パッキンを破損しないように取り付けて、ナット 4 個で固定します。
※取り付けに不備があると、排ガスが室内に漏れるおそれがあります。

- ⑦ ストーブ右側面のパネルを元通りに取り付けて、外扉を閉めます。

8 定期点検

長期間で使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、1シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い求めの販売店、または当社指定店などに点検を依頼してください。

愛情点検



●長年ご使用のペレットストーブの点検を!

●ペレットストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後7年です。

ご使用の際
このようなことは
ありませんか

- 炎が異常に黄色い。
- 予熱時間が異常に長い。
- 運転中異常な音がある。
- その他の異常・故障がある。



ご使用
中止

故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

9 故障・異常の見分けかたと処置のしかた

修理を依頼される前に調べていただきたいこと

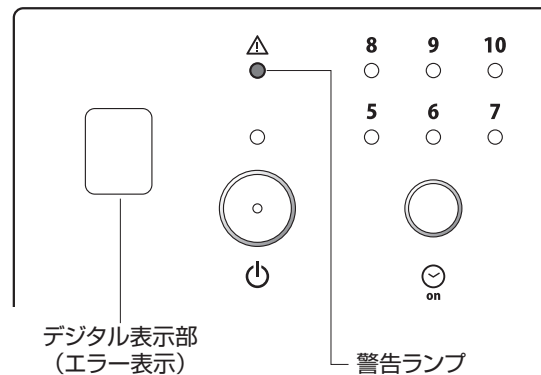
下表のような状態は故障ではありません。

状態	説明
購入後初めて使用するとき、または燃料切れした後の運転時に点火しなかった。	購入後初めてご使用になる場合や燃料切れしたあとに運転する場合は燃料経路内に燃料が満たされないため点火しないことがあります。もう一度運転スイッチを入れて再運転をおこなってください。
購入後初めて使用するとき、においが出る。	購入後初めてご使用になる場合、製品の塗料やパッキンの焼けるようなにおいが出る場合があります。このような場合は、お部屋の窓を少し開け、半日から一日程度、火力「max」で運転してください。
運転中ガリガリという音がある。	ペレット燃料を送る際にガリガリという音がある場合がありますが、異常ではありません。
点火時に給排気用トップ先端から煙が出る。	点火時に短時間煙が出る場合がありますが異常ではありません。また、燃焼バーナー内に燃料がたまった状態で点火すると大きな音がしたり、多量の白煙が発生する場合がありますので、点火前には必ず燃焼バーナー内の燃料を取り去ってください。
燃焼中に給排気用トップ先端から煙が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃焼バーナー内の残灰を掃除せずに溜まったまま運転を続けると異常燃焼してススが発生する場合があります。 ●燃焼バーナーが正しくセットされているか確認してください。正しくセットされていないと異常燃焼を引き起こす場合があります。
窓ガラスが曇る。	ご使用時に窓ガラスが曇ることがありますが異常ではありません。「 日常の点検・手入れ 」(19・20ページ)の項を参照し窓ガラスのクリーニングをおこなってください。
運転スイッチを押してもどのランプも点灯しない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか。
燃料が燃焼バーナーに落ちてこない。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料は入っていますか。 →入っていない場合は補給してください。また、燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。 ●燃料タンク扉が開いたままになっていませんか。 →燃料タンク扉が開いていると燃料供給モーターが作動しません。
点火しない(ペレットに着火しない)。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃焼バーナーが正しくセットされていない。 ●燃料が湿っていませんか? ●燃焼バーナー内に灰がたまっていると点火しづらくなります。
火力が切り替わらない。	運転開始時の初期運転中(運転開始後13~15分)は、点火動作および強制燃焼するため、火力の調節はできません。
点火してもすぐ温風が出ない。	運転開始時の初期運転中は、点火して温度が上昇するまでのしばらくの間、送風ファンは停止したまま待機し、温度が上昇した段階で始動します。
送風ファン風量切替ボタンを押しても風量ランプが切り替わらない。	設定火力によってお好みの風量に設定できない場合があります。詳しくは 送風ファン風量切替のしかた (11ページ)を参照してください。
風量設定表示の強風(⋮)ランプが点滅する。	「強風」で強制運転しています。詳しくは 送風ファン風量切替のしかた (11ページ)を参照してください。
途中消火した。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料は入っていますか。 →入っていない場合は補給してください。また、燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。 燃料タンク扉を開けたままにしていなかったか。燃料タンク扉が開いていると燃料が供給されず途中消火する場合があります。
(燃焼バーナー内に灰がたまると)炎が大きくなり、ガラスにすすが付着した。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃焼バーナーの灰を掃除してください。 →短時間で燃焼バーナー内に灰が多量に堆積する場合は燃料の保管状況等を確認してください。
デジタル表示部が、 □→□→□→□→□→□→□…の順で点灯する。	クリーニング燃焼中です。約5分間で自動的にもとの燃焼状態にもどります。

異常のお知らせ

安全装置が作動すると、操作部の警報ランプ(赤)が点灯をして自動停止します。

また、デジタル表示部に故障・異常の原因が表示(エラー表示)されます。
繰り返し表示するときや再運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。



表示点滅	表示内容	処置方法
0	過熱防止装置作動 (機器内温度上昇)	ストーブの周囲を囲ったり、温風吹出口に障害物はありませんか。
1	燃料タンクスイッチ作動 (燃料タンク扉が開いたままです)	燃料タンク扉が開いたままになっていませんか。 燃料タンク扉を閉めて再運転してください。
3	燃料供給モータ回転異常	燃料タンク内のスクリュウ搬送部に異物が詰まっていますか。 異物がない場合はお買い求めの販売店または当社の お客様相談窓口 にご連絡ください。
4	逆圧安全装置が作動しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃焼室扉が開いていませんか。 ・ 燃料タンク扉とタンクの間ペレットや異物を挟み込んですき間が生じていませんか。異物がある場合は取り除いてください。 ・ 強風が吹いている場合は風がおさまってから再運転してください。 ・ 排気経路が詰まっていますか。
5	対震自動消火装置作動 (地震または強い振動衝撃を受けました)	ストーブ本体や給排気管接続部に外れや異常がないことを確認したのち、再運転をおこなってください。
6	途中消火	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料タンクに燃料(木質ペレット)があるか確認してください。タンク内の燃料は吸込口を中心に消費されますので定期的にタンク内をならしてください。 ・ 燃焼バーナーに灰や燃焼殻が多量に堆積していないか確認してください。 ・ 燃料タンクの底にペレットくずや粉がたまっていますか。 ・ 排気経路が詰まっていますか。
7	点火不良	上記内容を処置しても再度エラー表示が出る場合はお買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
8	排気ファン回転異常	・ お買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
	周波数異常	・ 電源を確認してください。
9	操作部配線の断線	・ お買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
1	室内空気監視装置作動または断線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋の換気をしたあと、ストーブ本体が十分に冷えてから、たばこの煙や他の燃焼機器使用による影響確認の上、機器の損傷、給排気管のはずれなどの異常のないことを確認し、再点火してください。 処置をおこなったあと繰り返し作動するときはお買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
F	停電復帰	再運転をおこなってください。

9 故障・異常の見分けかたと処置のしかた

故障かなと思ったときに

原因	現象	運転ランプが点灯しない	点火しない	炎が立ち上がらない	炎が大きくなりすぎない	黄火で燃える	使用中に消えなくなる	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでない		○						電源プラグをコンセントに差し込む
停電した		○ F 点滅						停電復帰後再点火操作をする
対震自動消火装置作動							○ 5 点滅	停電復帰後再点火操作をする
逆圧安全装置が作動した							○ 4 点滅	●風がおさまってから再運転してください ●燃焼室扉をしっかり閉める ●燃料タンク扉とタンクの間の異物を取り除く
燃料タンクに燃料がない			○	○			○ 7 点滅 ○ 6 点滅	燃料タンク内に燃料を投入する
燃料タンク内に粉がたまっている			○	○			○ 7 点滅 ○ 6 点滅	掃除等により、燃料タンク底にたまった粉を除去する
ストーブ内の温度が高い							○ 8 点滅	●本体の周囲の障害物を取り除いてください ●本体の温度が下がってから再点火してください ●販売店にご相談ください
灰トレイ、燃焼窓、燃料タンク扉に外れやすき間がある						○	○ 1 点滅 ○ 4 点滅	確実に閉める
給排気用トップ先端がふさがっている			○			○	○ 4 点滅 ○ 5 点滅 ○ 7 点滅	遮へい物を取り除く
推奨外燃料を使った			○	○	○	○	○ 7 点滅 ○ 6 点滅	推奨燃料に入れかえる
燃焼室内、燃焼バーナー内に燃焼殻や灰がたまっている			○	○		○		掃除して灰などを除去する

●表中のFおよび数字は、エラー番号を示しています。

●処置されても直らない場合は、使用を中止し、お買い求めの販売店または当社の **お客様相談窓口** にご相談ください。

最大燃焼時の炎が大きすぎたり、小さすぎたりする場合

設置条件やご使用燃料の種類によって、火力が大きくなったり、小さくなったりすることがあります。最大燃焼時の炎が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は以下の方法で火力を調整してください。

注意

★火力は正しく調整する

正しく調整されないと、過熱防止装置作動や消火の原因となる場合があります。



① 運転中に、ストーブ背面にある燃料供給量調整ボタンを10秒以上長押しする。

操作部にあるデジタル表示部に「H」と「数字」が交互に表示されます。

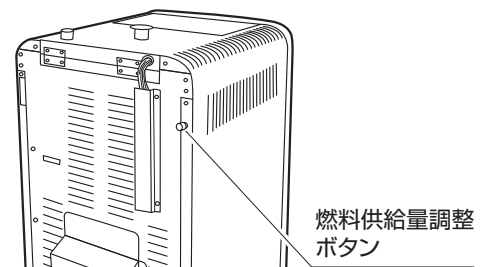
※初期設定値(標準)は「H4」です。

以前に設定の変更をおこなっている場合は、現在の設定が表示されます。

② デジタル表示部に数字が表示中に、燃料供給量調整ボタンを押す。

燃料供給量調整ボタンを押すごとに、数字が4→5→6→7→8→9→1→2→3→4…の順に切り替わります。

表を目安に設定を切替えたのち、必ず炎の状態を確認してください。これで設定の変更は終了です。操作終了の約1分後に表示が消えますが、炎の状態が良くない場合は再調整をおこなってください。



燃料供給量調整ボタン

設定値表示	調整範囲
H 9 … +30%	多くしたいとき
H 8 … +24%	
H 7 … +18%	
H 6 … +10%	
H 5 … +5%	
H 4 … (標準)	少なくしたいとき
H 3 … -5%	
H 2 … -10%	
H 1 … -15%	

10 部品交換のしかた

部品交換のときの注意

- 部品交換や修理をお受けになる場合は、販売店もしくは当社で修理されることを推奨します。
 - 不完全な修理は危険です。
 - 故障したものは使わないでください。
-
- 短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。
 - 部品は必ず純正部品をご使用ください。
 - 部品を交換するときは、ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

11 保管のしかた(長期間使用しない場合)

- ストーブを保管する場合は、「日常の点検・手入れ」(19・20ページ)の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。
- いたんでいる箇所は、必ず修理をしてから保管してください。

- 1 ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜く。
- 2 燃焼バーナー内、燃焼室内、灰トレイ内に付着した灰、ほこりや汚れを掃除機や乾いた雑巾などで取り除く。
- 3 器具の表面をよくふいて、汚れを取る。
 - 固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。(シンナー、ベンジン等ではふかないでください。)
- 4 ストーブは据付けたまま保管する。
 - 取り外して保管するときは必ず販売店もしくは当社に依頼し、湿気の少ない所に保管してください。
 - ★取扱説明書と工事説明書を必ず保管してください。

12 廃棄するとき



注意

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。



指示

- 燃料タンク内の燃料の抜きかたは以下を参照してください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

大量に残っている場合は、燃料タンクから抜き取ってください。特に燃料タンク底に木粉がたまっている場合は掃除機等で必ず除去してください。少量の場合は、運転させて燃やしきってください。

13 仕 様

名 称	ペレットストーブ	
型 式 の 呼 び	PE-6	
区 分	密閉式ペレットストーブ	
種 類	燃 焼 方 式	直接送風燃焼式
	給 排 気 方 式	強制給排気形
	用 途 別 方 式	強制対流形
使 用 燃 料	ホワイトペレット ^{※1}	
点 火 方 式	電気点火(温風点火式)	
発 熱 量 ^{※2}	最 大	5.96kW(5,130kcal/h)
	最 小	3.25kW(2,800kcal/h)
熱 効 率	75%(EN14785),70%(JHIA N-5601)	
暖 房 出 力 ^{※2}	最 大	4.17kW(3,590kcal/h)
	最 小	2.28kW(1,960kcal/h)
燃 料 消 費 量 ^{※2}	最 大	1.10kg/h
	最 小	0.60kg/h
外 形 寸 法 (本 体 寸 法)	高 さ	842mm
	幅	400mm
	奥 行	450mm
質 量	69kg	
燃 料 タ ン ク 容 量	9 kg	
電 源 電 圧	AC100V	
定 格 消 費 電 力 (50Hz/60Hz)	点 火 時	270W / 285W
	点 火 時 最 大	680W / 680W(点火初期に短時間発生)
	燃 焼 時	46W / 50W(送風ファン強時)
給 排 気 管 の 型 式 の 呼 び	T-DWS他(別売)	
給 排 気 管 壁 貫 通 部 孔 径	φ150~φ160	
給 排 気 管 の 呼 び 径	φ120×φ80	
安 全 装 置	停電安全装置、点火安全装置、燃焼制御装置、過熱防止装置、 対震自動消火装置、逆圧安全装置、室内空気監視装置、逆火防止装置	
附 属 品	外扉・燃焼室扉ハンドル・マグネット・ネジ(2本)・試運転用燃料(1kg)	

※1 推奨燃料は、直径6mmのホワイトペレットです。

それ以外の燃料でのご使用は燃焼不良を起こしたり、途中失火したり、エラーで止まることがあります。当社、および販売店にご相談ください。

※2 燃料の状態により発熱量・暖房出力・燃料消費量が異なることがあります。

14 アフターサービス

保証について

★保証期間はご購入の日より1年間です。

修理を依頼するとき

- 「故障・異常の見分けかたと処置のしかた」(21・22・23ページ)に従って、お調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入のの販売店、もしくは当社にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ① 品名…密閉式ペレットストーブ
 - ② 名称…PE-6
 - ③ 製造番号…6桁数字(燃料タンク扉の裏側ラベルに記載)
 - ④ お買い求め年月日
 - ⑤ 故障の状況(できるだけ具体的に)
 - ⑥ おなまえ・おところ・電話番号
- 裏表紙の保証書の規定にしたがって、販売店、または当社が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。



この取扱説明書とストーブに表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修用性能部品について

- ★ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後7年です。
- 補修用性能部品とは、ストーブの機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

★標高の異なる場所へ転居する場合は再調整が必要な場合がありますので販売店、または当社の **お客様相談窓口** までご相談ください。

 注意	★分解修理の禁止 故障・破損したら使用しないでください。 不完全な修理や改造は、危険です。	 分解禁止
---	--	---

 注意	★移動・運搬するときの注意 修理、引越しなどでストーブを運搬されるときは、燃料タンク内の燃料を抜いてください。	 指示
---	---	---

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、ご購入のの販売店、または下記 **お客様相談窓口** までお問い合わせください。

製造元 **株式会社 トヨタ** **お客様相談窓口**

フリーコール **0120-938-178**

■受付時間：平日(月曜～金曜)：午前9時～午後5時(祝日は除く)

据付け・移設について

- ストーブを設置する場所には、建築基準法や電気設備に関する技術基準、消防法に基づく火災予防条例に定められた設置をする必要があります。
- 施工上の責任は当社では負いかねます。

■据付け・移設工事は必ず当社指定店に依頼してください。

据付けや移設工事は据付業者に依頼し、お客様ご自身ではおこなわないでください。

株式会社 トヨタ ぺレットストーブ 保証書

型 式 PE-6 保証期間 本体 1年間

※お買い求め日 年 月 日

※お 客 様 様

ご芳名

〒□□□-□□□□

ご住所

〔電話 () 〕

※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は有料修理となりますから必ず確認して、購入証明書(領収書)を保管してください。

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。

お買い求めの日から左記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

※販売店名・住所・電話番号

株式会社 トヨタ 名古屋瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855 ☎052-822-1144

【 無 料 修 理 規 定 】

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、お買求めの販売店または当社が無料修理致します。
2. 取扱説明書に記入してある販売店に修理を依頼できない場合は、当社までお問い合わせください。
3. 保証期間内でも、次の場合は有料になります。
 (イ) 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意事項に従わない誤った使用、及び不当な修理や改造による故障や損傷。
 (ロ) お買い求め後の、器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障や損傷。
 (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧、公害その他環境要因による故障や損傷。
 (ニ) 推奨外の燃料の使用による故障や損傷。
 (ホ) 部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
5. 本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

- この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、当社までお問い合わせください。
- 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書の「アフターサービス」の項をご覧ください。
- お客様の個人情報、当規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

販売元 **豊臣工業株式会社**

製造元 **株式会社 トヨタ**
 本 社 〒467-0855
 名古屋市瑞穂区桃園町 5 番 17 号
 フリーコール 0120-938-178
 TEL <052> 822-1144
 FAX <052> 822-2742